

---

# 血をまとった兄の物語

爆走無能

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

血をまとった兄の物語

### 【Nコード】

N0610P

### 【作者名】

爆走無能

### 【あらすじ】

復讐をすると決めた兄、月哉。弟を愛することにするのだが…どうも、矛盾してしまう思考回路。

あなたはどちらを選びますか？過去の幸せと今の悲劇…

夫婦とたった一人しか居ない弟、真希。

あなたは…

もし、この状況に居たらどうします……？

## ブログ【結末の朝】（前書き）

『兄弟』をテーマした文章である。

アナタは私を見てくださいか？

私の存在を許せますか？

## プロローグ【結末の朝】

負けたくないと言ったあの日…

日々の日常……俺は求め続けていた。

‘安楽という場所’を…

負けたら…もう二度とあの日には、戻れないと覚悟を決めて――

「兄ちゃん……」

小さい声で俺を呼ぶ、俺の弟…真希<sup>まき</sup>。

まだ小さい頃のお前じゃ…

何も解らないと思うけれど、只、不安でいっぱいだったとおもっ。

何もないこの血の果てで……

「僕を…僕を一人にしないで……」

小さな両手を…ギュッと俺の手を掴みながら…寂しそうに言うてる。

だから、誓ったんだ。だから決めたんだ。

この俺と真希の目の前で両親が天井首吊りして、死んでしまったこの場所で…

《俺は復讐する。弟を絶対に一人にさせない。》と…

「お兄ちゃん…」

真希は凍えながらも、また俺を呼ぶ。

俺は黙ったまま…

自分の両親が首吊りしたことを、警察に報告しようと電話の方に向かった。

弟には…見せることができなかった。

俺の心にある憎悪…と、両親が亡くなった悔しいという……

気持ちを持ったままの俺の泣き顔を…

「お兄ちゃん…」

「真希、お前は部屋に戻ってろ…お兄ちゃんは、警察の人とお話が……」

「無理しないで…」

何度も俺のことを呼ぶ、真希に俺は……

真希の顔を見ずに指示をだす。

そうすると、真希は…  
悲しい声で俺を心配していた。

無理なんか……

俺は無理なんか、してない。

無理なんか……

絶対に――

「泣かないで……」

「……」

パッと、真希が言った一言に俺は……真希をぎゅっと抱き締めた。

本当は悲しかった。

涙が止まらないくらい、

両親が亡くなったことが……

この重みが

お前等に解るか……………

母親も父親も殺したのは……

俺だって言うことを――

だから誓ったんだ。

絶対に俺は…

弟を……真希を

一人にしないってことを―

だから決めたんだ。

真希のためなら、何でもするって……

どんなに  
俺は汚れてもいいって  
…

それが俺。

月哉つきざの最後の願いでもあった。

## ブローグ【結末の朝】（後書き）

まあ…初回なんで、感想をお願いします（<人>）！！！！

## 第一話・逃げないと決めた日

求め続けていた

この最悪なシナリオ……

両親の首吊り自殺……俺は願っていたんだ。

《安楽という場所》を……

その日を願ったのは……

20\*\*年12月24日のクリスマスの時だった。

弟は……まだ存在していなく、母親も父親も俺のコトを見る。

「月哉」

優しく俺の名を呼ぶ、母……  
瑠美。

俺を心から愛してくれた、優しい人だった…

「月哉、クリスマスパーティーをしよう！……今日は、お前の9歳の誕生日だからなあ！」

満面な笑みで笑う俺の父、隼斗<sup>はやと</sup>。

まるで、長男で生まれてきてありがとうと言っような優しさがあった。

「うん、ママ、パパ…ありがとう！」

「んまあゝ可愛い……！」

ギュー……！……！……！と、俺を優しく抱きしめてくれる瑠美……

「メリークリスマス……！」

突然、サンタさんのカッコをして、現れる隼斗……

「お前だけが居れば……俺たちには、何も要らないんだ……月哉、お前は俺たちの自慢の一人息子だ。」

隼斗は……テーブルに食事を用意し、俺に愛を込めた言葉を言った……  
いつもなら言わない言葉……

でも、  
とても幸せだった。

隼斗と瑠美に包まれた温もりは……

こんな幸せがいつまでも続けばいいと、瑠美も隼斗も……この俺も願っていた。

この10歳の誕生日。  
そんな幸せは……  
決して、長くはなかった。

「……」

突然、奪われる幸せ…

俺の幸せが逃げていく。

逃げないで、

一人にしないで―

お願いだから……

11歳のクリスマス…

俺の他に瑠美から新しい命が誕生した。

二人は大喜びして、誕生日パーティーのことも忘れていた。

11歳の9月……  
弟が誕生した。

弟の名は…真希。  
希望と真の心を持つ…名。

瑠美も隼斗も…真希を可愛がった……

許せなかった…

まるで、本当の子を愛するような感じだった。

許せない両親……  
だから、逃げたんだ。  
この場から……

泣くほど悔しかった。

医者が隼斗と瑠美に話を聴いてしまった俺。

医者『やっと、生まれましたね♪アナタたちの子供が…』

最初は疑った。

アナタたちって、俺はお前たちのなんだっただ？

医者『養子の子よりも、実の子を愛する方が実感しますからね…』

瑠美『はい…もう嬉しくて、真希♪私の大切な子、真希。』

嘘だろ…って、俺は自分の耳を疑う。

でも……これが現実だった。

許せない、許せない、許せない、許せない、許せない、  
許せない、許せない、許せない……

許せないんだ。

病院の中……病室の102号室の中で喜ぶ夫婦とドクター……

その102号室の外、一人の男は……憎悪に包まれてしまった。

その後……

俺は、夜に隼斗の部屋に入り、家族構成の目録を見た。

確かに俺は、  
養子でしかなかった。  
.....

俺が中学一年生の時、  
まだ12歳だった...

真希は2歳を迎える9月.....

「月哉、中学生になったんだ.....少しは自覚を持ったらどうだ？中  
学生としての...」

朝食で交わした会話.....

まるで、

昔と今は違うようなー

この父、隼斗。

俺を邪魔者みたいに……

誰か…

俺を見てくれー

愛を確かめたいと思い、  
求め続ける日々…

その思いを胸の中に抱き、  
学校へと登校する俺。

〈中学校〉

「どうした？月哉……」

俺のむしゃむしゃとした心をいつも支えてくれるのは……“友”しか居なかった。

彼の名は…なつき夏樹。

「恋の悩みか??？」

「んな訳無いだろ……」

呆れる……

言わなきゃ解らないのか？  
コイツは……

夏樹「ハア……」

月哉「俺がため息を着きたいよ……」

夏樹「嫌、お前は俺に甘えていないか？確かに、俺はお前の親友でもある。」

だが…まるでこの世界の苦痛をしょい込んでいるような感じて見えるのは…俺だけか？」

夏樹の言う通りかも知れない。

俺は求めるばかりで……

何も相手に答えていなかったんだあ。

逃げる日々の現状、俺はそんな日々から脱出しようとしたので…

あった。

【つづく…】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0610p/>

---

血をまとった兄の物語

2011年10月6日10時58分発行